



1【大島圭介の墓】青山霊園に眠る大島圭介の墓。五稜郭の独立政府では陸軍奉行を務めた。 2【赤松則良の墓】駒込「吉祥寺」にある。榎本とはオランダ留学仲間である。榎本らと合流できず函館へは行けなかった。 3【澤太郎左衛門の墓】青山霊園に眠る澤もオランダ留学仲間。五稜郭の独立政府では開拓奉行だった。 4【甲賀源吾の墓】文京区の光源寺に眠る。果敢にも敵艦を奪い取るべく、り込みをかけるが戦死した。 5【甲賀源吾の碑】同寺に残る碑。空襲により真ん中で割れている。 6【土方歳三の墓】新撰組の英雄・土方歳三も五稜郭の戦いに散った。多磨の石田寺に墓がある。 7【永井尚志の墓】西日暮里の本行寺に眠る。独立政府では函館奉行を務めた。 8【高松凌雲の墓】谷中墓地にある凌雲の墓。函館での治療活動は函館戦争の美談の一つとなった。 9【円通寺に残る多くの碑】上野戦争の舞台であった黒門が移築されている円通寺には、榎本をはじめ大島や澤による慰霊碑が建ち並んでいる。 10【保元寺】釈放された榎本は浅草にある保元寺で、数ヶ月、謹慎したという。

五稜郭のイメージが強い榎本の口癖はペランメー

今月の幕末歩きは幕末最後の戦い「函館戦争」を指揮した榎本武揚。榎本といえど、何とんでも五稜郭での戦いのイメージが強いが、榎本自身は江戸の下町・御徒町の出身である。父の代からの江戸入りなので所謂「生粋の江戸っ子」というわけではないが、その気質は義理人情に厚く、ペランメー調で叫ぶその姿は、まさに江戸っ子そのものであったという。オランダ留学時代には、榎本があまりにペランメーを連発するので、オランダ人がどういう意味かと辞書を引いたという逸話まで残っている。

その後、勝と西郷による江戸城無血開城と進み、その条件には軍艦の引き渡し項目もあった。徹底抗戦を主張していた榎本は当然これを拒否するのだが、勝との交渉の結果、半分の四隻は引き渡しに同意した。そしてこの頃、同じく抗戦していた彰義隊が上野で敗れた。ここで榎本は遂に脱走を決意し、残りの軍艦を率いて函館へ向かうのだった。これに彰義隊の生き残りや、会津戦争で敗れた土方歳三をはじめ新撰組などが合流し、最後の希望を持って函館へと舞台を移すのだった。

ある。榎本は函館戦争において、この万国法を常に頭に置いて戦っていた。作戦においても、万国法で認められているものを採用していたのである。

そんな江戸っ子・榎本武揚のイメージが五稜郭に集中しているのは彼の留学期間に関係している。幼少よりジョン万次郎の塾などで学んだ榎本は、その後、長崎海軍伝習所を経てオランダへ留学した。その出発の年が文久二年。この年は和宮降嫁に寺田

函館に辿り着いた榎本らは、ここに独立政府を立ち上げるべく、まず選挙による組閣を始めた。万国法に精通していた榎本の考えで

これを受けた。その後も榎本はロシア公使となり樺太・千島交換条約を締結、さらに様々な内閣で大臣職歴任していった。しかしこれらは決して榎本が望んだものではなく、政府から各部署に引張り出されたというのが実像であるようだ。言ってみれば榎本以上の適任者が薩長新政府に見つからなかったのだ。榎本は出世を望まず、黙々とその仕事を全うしていった。

そこですぐに榎本ら幹部は自分たちが出頭することで、兵の命を救おうと薩長軍に降伏し、函館戦争は幕を閉じたのだった。

新政府に登用された榎本はその手腕を遺憾なく発揮した

さて、降伏した榎本らは江戸に送られた。やはり江戸の新政府の大筋が榎本らを反逆罪として死刑にすべきだという声が多かった。そんな中、このような男を殺すわけにはいかない、必死に助命活動をしたのが黒田清隆であった。何と黒田はこの助命嘆願の為に坊主頭にならなければならないのだ。そのおかげか榎本は、約二年の牢屋生活を経て晴れて釈放となった。もっともこれには、榎本の優れた能力を新政府が欲したからという部分もあった。榎本は留学時、造船技術や軍事、さらには国際法から化学、鉱物学までも学んでおり、語学力も五カ国語を読める程であった。この能力を放っておくにはいかにも惜しく、釈放された榎本に黒田は北海道の開拓仕を勧めた。榎本としては薩長軍と戦ったトップとして、新政府に仕えることには非常に抵抗があったのだが、黒田の必死の説得の末、遂に

後年、福沢諭吉は「瘦我慢の説」の中で、幕臣であった者が新政府の職に就くべきではないと、勝海舟と榎本を強烈に批判している。しかし、明治期の榎本の批判はいささかのはずれに思える。今年はいささかのはずれに没後百年の年である。その功績に対して評価の低く感じる榎本武揚をもう一度見直してみるのはいかがだろうか。



11【墨堤植桜の碑】数々の大臣職を歴任した榎本は晩年、墨田区の向島で過ごした。付近の桜の名所「隅田公園」には榎本の筆による「墨堤植桜の碑」が建つ。 12【榎本武揚像】同じく墨田区の「梅若公園」には榎本の銅像がりりしい大礼服姿で建っている。 13【黒田清隆の墓】榎本の助命に努めた黒田は青山霊園に眠る。黒田と榎本はその後、北海道の開拓に尽力した。第2代内閣総理大臣である。また、黒田の葬式の際、葬儀委員長を務めたのが榎本だといわれている。 14【榎本武揚の墓】73歳で亡くなった榎本は駒込「吉祥寺」に眠る。本年が没後100周年にあたる。 15【東京農業大学の胸像】北海道の開拓によって農業の重要性を深く認識した榎本は、農業大学を設立した。世田谷キャンパスには榎本の胸像が建立されている。

TOKYO 街に残る江戸の終焉跡

東京幕末歩き

取材・文・構成 © 三澤敏博(絡線堂)

BAKUMATSU WALKING

青山霊園や吉祥寺などのお墓巡りなど

みさわとしひろ デザイン・イラスト制作を生業とするかたわら、見つけた銅像は三六〇度写真に収めるといふコンセプトのもと、日々幕末スポットに繰り出してはコレクションを続ける。その専業好きが高じて、オリジナルの幕末グッズも制作している。

五稜郭にて最後まで戦い挑んだ榎本武揚
その才能は近代日本に必要不可欠だった!!